

## 教師兼協力者・佐藤ミツとは何者か（1）

### はじめに

宣教師は派遣された国での働きを本格的に開始する前に、まずはその国においてその国の言語を習得するための集中的な学習を2年間ほど行います。それを修了してから具体的な働き場所へ派遣されるわけです。

2年間日本語の語学研修を受けたとはいえ、日本語での説教は大変です。流暢な日本語で説教をする宣教師もいますが、そこまでのするには語学センスと共に長年の学習と経験が必要です。最初は当然ですが、片言の日本語での説教しかできません。会衆は忍耐と愛をもって聞き取ろうとします。ただ、日本語として全く意味が通じない内容であれば、聞き手がどんなに努力してもどうしようもありません。そのようなことが起こらないように、宣教団は宣教師が独自に「教師兼協力者」を雇うことを認めていました。その費用は必要経費となるのでしょうか。「教師」という面では、何よりも日本語の教師として、宣教師が日本語の説教原稿を書くのを手伝ったり、出来上がった原稿をチェックしたり、読み方や発音を指導したりする役割です。「協力者」という面では、様々なところでの出番が待っていたはずで、日本とアメリカでは文化も習慣やマナーも異なります。日本の流儀を身に着けないと、相手とのコミュニケーションがスムーズにとれなかったり、相手に不快な思いをさせてしまったりということになりかねません。そのようなことにならないように「協力者」がお手伝いするわけです。また社会のシステムも日本独特のことがありますし、役所に何か書類を提出するにしても、外国人にはなかなか勝手が分からないでしょうから、そのような時も「協力者」の出番となります。

### 1. グラント宣教師夫妻の教師兼協力者

グラント宣教師夫妻の場合も勿論そうでした。1950年（昭和25）に来日してから2年間の語学研修を経て、1952年（昭和27）に仙台に派遣され、開拓伝道に着手することになりますが、グラント宣教師夫妻も教師兼協力者を仙台での働きのために雇っていました。「佐藤ミツ」という方です。グラント宣教師は佐藤ミツの働きについて次のように語っています<sup>1</sup>。

「佐藤さんは当時、私の説教の準備という重要任務を手伝い、優秀な言葉の先生だった。しかし、彼女はそれにとどまらず、業務上の交渉においてしばしば仲介人となり、キリスト教幼稚園における豊かな経験を背景に、この新しい働きを行う上で大切な支援を数多くしてくださった。彼女は若く経験が少ない教師の相談相手となり、キャサリンが指導要綱を作成する手伝いをし、毎月の保護者会や家庭訪問を手伝った。彼女の手伝いがなければ、幼稚園は実在することがなかったかもしれないし、少なくともあれ程短い期間にあれ程成功することはなかっただろう。(中略) 佐藤さんのようにキリストに忠実に従う者は、何回も敵対心と相まみえ、それをはねのけ、私たちの弱く、内気な信仰に刺激と挑戦を与えてくれた」。

## 2. 佐藤ミツとは何者か

「佐藤ミツ」はどのような人物だったのでしょうか？ グラント宣教師の記憶によれば、戦後、満州から着の身着のまま送還されたこと、満州では約 20 年ミッション病院に夫と共に勤務<sup>2</sup>していたこと、本人も夫もクリスチャンで子供がいたこと、幼稚園教諭として豊かな経験を持っていたこと等が人物像の断片として挙げられます。

これだけの情報なのですが、彼女について大胆に妄想を膨らませてみました。在仙の宣教師のもとで働くということは、少なくとも仙台にゆかりがある人物で、一定程度の教育を受け、キリスト教や聖書に関しても豊かな知識を持つクリスチャン女性であったはずで、「それならば、もしかしたら仙台の女子のミッションスクールの卒業生かもしれない」と考え、まったくあてずっぽうでしたが、まずは手元にあった『尚絅女学院 100 年史』の人名索引で「佐藤ミツ」を調べてみました。すると一カ所にその名前が出ているではありませんか。その方は尚絅女学校本科 18 回卒業生でした。勿論それだけでは、彼女がグラント宣教師夫妻に仕えた教師兼協力者であったかどうかは特定できません。「これが同一人物であれば、尚絅学院と仙台教会の両方に関わってきた私としては嬉しいのだが・・・」という思いが高まり、尚絅学院同窓会事務室で、同窓会誌『むつみのくさり』<sup>3</sup>のバックナンバーを調べ、この同窓生についての情報を集めてみました。その結果、次のことが判明しました。

(ア) 第 18 回卒業生 (1916 年・大正 5 卒業) の中に、「相墨<sup>アイズミ</sup>みつ<sup>4</sup>」という人物がいたこと (卒業時の校長は A. ブゼル宣教師)<sup>5</sup>

(イ) 相墨みつの実家は岩手県遠野町石倉通であったこと<sup>6</sup>

- (ウ) 相墨光子 (ママ) は 1918 年 (大正 7) 頃は、仙台にあった聖公会系の青葉女学院保母養成所で学んでいること<sup>7</sup>
- (エ) 相墨光子 (ママ) は 1923 年 (大正 12) 頃は、東京の本郷駒込に居住していたこと<sup>8</sup>
- (オ) 相墨みつは 1924 年 (大正 13) に佐藤三郎と結婚したこと<sup>9</sup>
- (カ) 佐藤ミツは 1925 (大正 14) 頃は、満州奉天淀町に居住していたこと<sup>10</sup>
- (キ) 佐藤光子 (ママ) には二人の子供がいたこと (1928 年・昭和 3 当時) <sup>11</sup>

同窓会誌から得られたこれらの情報により、尚綱の卒業生・佐藤ミツ<sup>12</sup>とグラント宣教師夫妻の教師兼協力者・佐藤ミツが同一人物であると考えても、大きな矛盾は無さそうな気がしてきました。但し、勿論これだけの情報ではまだ断定できませんので、次号でもう少し詳しく調べた結果をまとめることとします。

### 3. 歴史は繰り返される

グラント宣教師夫妻が開拓伝道のために来仙してからの最初の 1 カ月は、宣教師館がまだ完成していなかったため、尚綱学院で働いていた二人のアメリカン・バプテストの宣教師のご厚意で、その宣教師館 (中島丁) にグラント家族 4 名が 1 カ月間もお世話になりました。また、グラント宣教師の説教準備や幼稚園の立ち上げや運営に関して、アメリカン・バプテストの宣教師が設立した尚綱女学校の卒業生が、教師兼協力者として重要な役割を果たした可能性が出てきました。更に、仙台教会設立メンバーであり、幼稚園設置の時から教諭を務めた三浦栄子さん、そして同じく設立メンバーで初代の婦人会長として貢献した莊子聡子さんは、それぞれアメリカン・バプテスト系の尚綱教会や塩釜教会から転会された方々でした。

これらのことを踏まえて多少大げさに表現すれば、南部バプテストとアメリカン・バプテストの仙台における具体的な協力関係の中で、私たちの教会が誕生したと言っているのでしょうか。私は 4、5 年前に塩釜教会や尚綱教会でかなり長期間に渡り月 1 回の説教奉仕をさせていただきましたが<sup>13</sup>、アメリカン・バプテストと南部バプテストの協力関係の中で生まれた仙台教会の歴史を思えば、この二つの教派が必要に応じ互いに助け合うのは当然なことと言えます。歴史は繰り返されるのです。

(文責：小林孝男)

1『主の息吹の中で』89~91 頁

2「ミッション病院に夫と共に勤務」の部分には正確ではない。実際は病院ではなくミッション系の奉天医科専門学校(後に奉天盛京医科大学と改称)で、ミツは日本語の教師として、三郎は幹事として勤務していた。詳しくは次号で触れる。

3 尚綱女学校同窓会の機関雑誌として、1907年(明治40)に創刊

4 第18回卒業生の中に「みつ」(または「ミツ」「光子」という名前)の者は相墨だけである。

5 資料(1917/12/28\_むつみのくさり10号)18回卒業生集合写真

6 資料(1917/12/28\_むつみのくさり10号)85頁

7 資料(1918/11/24\_むつみのくさり11号)17頁

また、資料(年代不詳\_明治・大正期におけるキリスト教主義保育者養成)で、著者(志賀智江)は青葉女学院保母養成所について以下のように紹介している。「当初日本聖公会の婦人伝道師養成の目的で明治32年に仙台にできたものであるが、大正2年に『青葉女学院』と改称して保母養成部を併設している。その教育目的は、『幼稚園保母及び将来児童を指導すべき者を養成するをもって目的となし更に幼稚園伝道事業のために特に訓練をなすものとす。』とあり、幼稚園を通した聖公会の宣教の熱意をはっきり打ち出したものである」。なお同校は1941年(昭和16)に廃校となる。

『尚綱女学院100年史』163~164頁、1919年に開設された尚綱の幼稚園で相墨ミツは、教諭又は助手として勤務している。

8 資料(1923/02/15\_むつみのくさり14号)112頁

9 資料(1925/08/08\_むつみのくさり16号)120頁

10 資料(1925/08/08\_むつみのくさり16号)127頁

11 資料(1928/07/09\_むつみのくさり19号)37頁

12『むつみのくさり』では、号数によって佐藤(相墨)の名前が、「みつ」であったり「ミツ」や「光子」であったり様々に表現がされているが、内容的には明らかに同じ卒業生のことを指す名前として使われている。どれが本名でどれが通称・通り名かは、戸籍を調べていないので判断できない。こういったことは昔はよくあったことであり珍しくはない。

13 日本バプテスト同盟塩釜キリスト教会の専任牧師不在期間、2019年6月から2020年3月まで月1回小林が説教奉仕を行った。また、日本バプテスト同盟尚綱教会においては、同教会の都合により2020年4月から2022年3月まで月1回の説教奉仕を行う。

佐藤先生  
渡辺先生  
内田先生  
葛野先生  
千賀先生  
ブゼル先生

岩崎先生  
内村先生  
中目先生  
伊手先生  
草刈先生

朝倉先生  
高久先生  
相墨先生  
永井先生



前左右ヨリ  
境野先生  
岡本先生  
高野先生  
岩本先生

中列右ヨリ  
中瀬先生  
小泉先生  
星川先生  
佐藤先生

後列右ヨリ  
勝又先生  
三浦先生  
小原先生  
小池先生

第拾八回卒業生